

JCI-TC152A

性能規定に基づく ASR 制御型設計・維持管理シナリオに関する研究委員会

第3回幹事会議事録

日時：2016年9月26日（月）15時～17時

場所：JCI 12階 第2会議室

出席者：山田，山本，上田，久保，佐川（敬称略）

配布資料：幹3-0：第3回幹事会議事次第

幹3-1：第5回全体委員会議事録（案）

幹3-2：WG1 CPT 共通試験結果

幹3-3：WG2 資料

幹3-4：WG3 目次案

幹3-5：報告書の構成（案）

幹3-6：JCI AAR3 および DD2 改正案

議事：

1. 各WGの報告

1.1 WG1

- ・CPT 共通試験（A 配合：遅延膨張性，B 配合：急速膨張性，機関 A：九大）の経過が報告された。
- ・使用骨材が共通である以外は，セメント，化学混和剤等，各機関所有の材料を用いている。空気量および供試体寸法の測定の指定はしていない。機関 A で，質量が 26 週での増加幅が大きい。脱型までの養生条件の差が影響している可能性がある。
- ・N=3 平均の値がプロットされているが，変動範囲を示すのがよい。アルカリ総量 3.0 kg よりも 5.5 kg のデータが安定している傾向にある。セメントのアルカリはミルシート値によっているが，個体差の影響で添加アルカリの十分な 5.5 kg で安定している可能性がある。要因ごとに各機関のデータを整理し，変動の大きな供試体を対象としてアルカリ総量のチェックを行うのがよい。

1.2 WG2

- ・構造物の重要性や要求性能に応じた対策レベル，管理目標を整理し，使われている対策の目的（完全に抑制したい，あるいは劣化速度を減少させたい，など）の定め方を考えていく。資料 幹3-3 のキーワードを整理して，対策のストーリーを仕立てる。
- ・ASR が疑われる構造物の実際の管理事例について，対応の現状（動機や判断根拠）を調査する。対策後の経過があればなおよいが，対応の難しさや問題点が整理できればよい。調査フォーマットを至急作成して幹事団で確認する。調査対象は，まず委員会メンバー

とする。福岡市の例（佐川幹事）などが参考になる。

1.3 WG3

- ・PC および耐震壁で、主として耐荷性能を対象とした共通解析を進めている。点検やモニタリング結果を利用できる局所的な変状を取り入れる余地を検討していく。
- ・終局限界状態だけでなく、剛性やたわみ、膨張による変形、応力状態などの、使用性にかかわる検討が必要である。海外文献のレビューを中心に情報を収集する。
- ・解析の入力やモデル設定の場面で出てくる問題点を整理し、点検、モニタリングのあり方や要素モデル構築のための今後の研究課題を明らかにしてほしい。

2. まとめの方向性について

- ・Dr. Gocevski のアブストラクト（1章から 2.5.1 項の手前まで：WG1, 2.5.1～2.5.2：WG2, 2.5.3～最後：WG3）、Dr. Coppel および Dr. Grimal のアブストラクト（山本幹事長）、パネルディスカッション（山田委員長）について、12 月末までに訳文を作成する。それぞれのファイルを幹事各位に山本幹事長が送る。
- ・国際ワークショップの内容を含む委員会報告の骨子、ならびに JCI 規準の改正について、報告書にあわせてコンクリート工学誌に投稿することとする。

3. 次回全体委員会

- ・12 月 5 日（月）、6 日（火）、20 日（火）を候補日として、小川幹事の予定を勘案して決定する。いずれも午後の開催とし、忘年会を予定する。

4. 報告会日程

- ・JCI 関連行事、他学会行事、国際会議、候補会場等の予定を考慮して決定する。（幹事会内で 9 月 1 日としたが、建築学会が開催されるため再調整することとなった。）
- ・午前（報告会）、午後（シンポジウム）とすることを検討する。

5. その他

- ・10 月 11 日の研究委員会に、川端通信委員の委員への追加、戸田協力委員の追加を申請する。

（文責：山本）